

平成24年度 医動物・食品中異物検査のまとめ

医動物担当では、人の健康を害したり、人に不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、市民、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者等の依頼を受けて、昆虫類を中心に食品へ混入した異物の検査を行っています。平成24年度の食品中異物検査実績は、13件でした。

依頼された13件のうち、昆虫類は12件(チョウ目5件、ハエ目3件、コウチュウ目2件、ゴキブリ目1件、シラミ目1件)で、その他の節足動物(等脚目)1件でした。今回は、同定結果の詳細を報告します。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
ドライフルーツに幼虫が混入		ノシメマダラメイガの幼虫 (チョウ目)	体色は黄白色。幼虫は米などの穀物、ナッツ、チョコレート、香辛料など多くの貯蔵食品、乾燥食品を食害する。世界共通種で、広く日本に分布する。
弁当のごま和えに幼虫が混入		ノシメマダラメイガの幼虫 (チョウ目)	同上
沢煮椀に幼虫が混入していた		ハイマダラノメイガの幼虫 (チョウ目)	頭部は黒色、胴部は黄白色。年3~4回の発生で、幼虫で越冬する。幼虫はアブラナ科の野菜(ダイコン、ハクサイ、キャベツ等)を食害する。日本全土に分布する。 *写真は同定根拠となった頭部の毛の様子
はんぺんに小さな黒い虫が混入		メイガ科の一種 (チョウ目)	本科のものは重要な害虫が多く含まれ、幼虫の食害状態も多様である。葉を巻くもの、茎や根および新梢、枝、幹に入り込むもの、果実やさや、花に食入するもの、穀類や菓子類を食害するものなど種類は非常に多い。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
パックの刺身に幼虫が混入	 幼虫、茶褐色、約2.5mm	チョウ目(ガ類)の若齢幼虫 (チョウ目)	ガ類成虫は一般に夜行性で、灯火に集まる。主に幼虫が食品を加害し、その生活様式は多様で、一般的には植物や乾燥動植物等を食害する。
パックの鳥胸肉にウジ状の虫が多数混入	 幼虫、乳白色、約3mm	ナミクバエの幼虫 (ハエ目) *写真は同定根拠となった咽頭骨格(種により特徴的)の様子	雌成虫はしばしば家屋内に侵入し、1 齢幼虫を産み落とす。幼虫は便池、塵芥等に多く発生する。日本全土で普通に見られる。
ゆでうどんに小さな黒い虫が混入	 成虫、赤褐色、約1.5mm	コバエ類の一種 (ハエ目)	小型のハエ。食性は広く、幼虫が腐敗した動植物質から発生する種類、動物の排泄物から発生する種類、植物の葉の組織内に穿孔する種類などその数は非常に多い。
まつたけに幼虫が混入	 幼虫、黒褐色、約10mm	キノコバエ科の幼虫 (ハエ目)	本科の幼虫は各種のキノコ類を摂食する。幼虫は主にキノコの子実体を摂食する。
ワカサギに黒い虫が混入	 成虫、茶褐色、約12mm	ヒメヒラタシデムシ (コウチュウ目)	体色は灰色から黒褐色。成虫は4~10月に出現し、腐敗動物質に集まる。 日本全土に分布する。
購入したパンに虫の死骸が混入	 成虫、赤褐色、約3mm	ヒラタコクヌストモドキ (コウチュウ目)	体色は赤褐色。穀粉害虫として最も普遍的な種で、小麦粉などの穀物をはじめ、菓子、パン類、ビスケット、チョコレートなど多くの食品を食害する。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
あぶらかれいのえんがわに黒い虫が混入	 <p data-bbox="437 474 703 510">幼虫、黒褐色、約7mm</p>	チャバネゴキブリの幼虫 (ゴキブリ目)	小型のゴキブリで、体色は赤褐色。飲食店、ビル、事務所などに生息し、気温の低下がない場所では冬季でも活動が見られる。雑食性であらゆる物を食害する。日本全土に分布する。
弁当(ご飯)の中に虫が混入	 <p data-bbox="437 772 703 808">成虫、灰白色、約3mm</p>	ヒトジラミ (シラミ目)	体色は淡い灰白色。世界各地に分布する代表的なヒト寄生性種。成虫、幼虫ともにヒトから吸血する。衣類の縫い目や折れ目(コロモジラミ)、頭髪内(アタマジラミ)に生息する。
キャベツのおひたし(ちりめんじゃこ入り)に異物が混入	 <p data-bbox="437 1070 703 1106">幼体、灰褐色、約13mm</p>	ウオノエ科の幼体 (その他の節足動物、等脚目)	ウオノエ科の多くは海水産。魚類寄生性で、ひれ、口腔、えらに付着する。

【 検査研究課 医動物担当 】